

臨時休校課題その3

「航海計器2」(‘20. 5. 27.) No1

氏名

こんにちは！今回の課題も海難に関わる問題です。回答方法も含めハイレベルな課題です。えーっ！と言わず、チャレンジしてください。

問 下記は貨物船A丸と漁船B丸の衝突事件です。両船舶について衝突に至るまでの概況を示しています。各船舶の操船や対応について「これはまずい！この操船はだめだ！」とあなたが思う箇所にアンダーラインを引き、回答例のように、その操船や対応方法に関わる法規を上げ、簡単に（箇条書き程度でも可）説明しなさい。

[A丸] 船種：貨物船 総トン数499トン 全長76m

[B丸] 船種：漁船 総トン数4トン 全長12m

[気象・海象] 当時天候は晴れ、風力2の西風が吹き、視界（昼間）は良好であった。

【衝突にいたるまでの両船の状況】

[A丸] A丸は、12時00分西灯台から043度(真方位)7.8海里の地点において、真針路を053度に定め、機関を全速力前進にかけ、12.0ノットの対地速力で、自動操舵により進行した。A丸船長は、14時36分東灯台から354度11.0海里の地点に達したとき、左舷船首21度1.2海里のところに、前路を右方に横切る態勢のB丸を初めて視認したが、一見して同船は前路を無難に替わると思い、衝突のおそれがあるかどうかを判断できるようコンパス方位を確かめるなどしてその動静を監視することなく、その後同船が前路を右方に横切り衝突のおそれがある態勢で接近していることに気づかず、警告信号を行わず①間近に接近しても右転するなどして衝突を避けるための協力動作をとらないまま続航した。14時40分少し前A丸船長は、至近に迫ったB丸を認めて衝突の危険を感じ、汽笛による長音及び連続した短音を吹鳴、機関中立にして後進をかけたが及ばず、14時40分東灯台から358度11.4海里の地点において、A丸は、原針路、原速力のまま、その船首がB丸の船首に前方から55度の角度で衝突した。

[B丸] B丸は、14時36分東灯台から358度11.9海里の地点において、真針路178度に定め機関を半速にかけ、8.0ノットの対地速力で、手動操舵によって進行した。定針したときB丸船長は、右舷船首034度1.2海里のところに、前路を左方に横切る態勢のA丸を視認できる状況にあったが、右舷前方を一べつしたのみで、右舷には航行の支障となる他船はいないものと思い、右舷前方の見張りを十分に行うことがなく、A丸が前路を左方に横切り衝突のおそれがある態勢で接近していることに気づかず、右転するなどして、同船の針路を避けまいまま続行した。14時40分わずか前B丸船長は、至近に迫ったA丸を認め、衝突の危険を感じて機関後進にかけたが及ばず、B丸船長は、原針路、原速力のまま、前示のとおりに衝突した。

【回答】 回答例（上記の状況文にアンダーラインを引き、番号をつける この場合は①を付けました）

番号 ① 関連法規：予防法第34条操船信号及び警告信号

概要：航行中の動力船は、互いに他の船舶の視野の内にある場合は、汽笛によ

りそれぞれ定められた信号を行わなければならない。←教科書P206

（もっと詳しく調べると）予防法第34条第5項：互いに接近する場合、他の

船舶の意図もしくは動作を理解することができない場合、警告信号を行わ

なければならない。←図説P164・170（ここまで調べてくれると最高！）

以下、下記のような書き方で、回答してください。

番号() 関連法規：()

概要：

番号() 関連法規:()

概要:

【お願い】 その①、その②、その③と課題に取り組んでもらいましたが、どのように思いましたか？感想と「振り返り」、その振り返りから「今後の取り組み」について、自由に書いてください。

＊書ききれない場合、裏面を使ってください。また、問いの回答でも裏面を使ってもかまいません。

〔感想(自己紹介でもいいです)〕

〔振り返り:自己評価(できたところとその理由、できなかったこととその理由、反省や課題)〕

〔今後の取り組み:振り返りを踏まえて〕